

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

| | |
|-------|-----------|
| 区 名 | 北区 |
| 学 校 名 | 大阪市立扇町小学校 |
| 学校長名 | 石原 至朗 |

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立扇町学校では、第6学年 125名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

本校児童の平均正答率は、国語科において4.3ポイント、算数科において7ポイント、全国の平均正答率を大きく上回っている。領域ごとの正答率もほとんどが全国平均を上回っており、特に国語科の、「言葉の特徴や使い方に関する事項」に関する問題や、算数の「変化と関係」に関する問題で、平均正答率が全国平均を大きく上回っている。一方で、国語科の「情報の扱い方に関する事項」に関する問題においてやや課題が残る。また、本校児童の平均無回答率は、いずれも全国の平均無回答率より低い値に収まっている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕「言葉の特徴や使い方に関する事項」「(A)話すこと・聞くこと」において、全国平均を大きく上回る結果が見られる。これらのことから、本校が昨年度から取り組んでいる「学び合い」学習において、協同的な学習を取り入れ、児童が互いに聴きあいながら考えをより深められるような授業づくりを行ったことが一定の成果につながったと考える。情報の扱い方に関する事項が低下していたため、今後は、文章の要約をしたり自分の考えを説明したりできるよう指導を工夫していく必要がある。

〔算数〕「A数と計算」や「C変化と関係」において、全国平均を大きく上回る結果が見られる。これらのことから、基礎・基本の徹底やタブレットを活用した個に応じた学習や大型モニターを使った視覚的にわかりやすい授業づくりに取り組んだことについて一定の成果が認められる。どの領域も全国平均を上回ることができたが、今後は「図形」領域を中心に指導方法を工夫する必要がある。

質問調査より

「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」の項目では、全国平均を上回っている。これは、令和4年度より児童が学校をよくするために助け合ったり、支え合ったりできるような仲間づくりを目指して取り組んできた成果と言える。また、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」の項目でも肯定的に回答する児童の割合が全国平均を上回っており、児童一人一人が多様な考えを認め合いながら、学校生活を送ることができていることがわかる。今後も何事にも児童が主体的に取り組めるようにしていきたい。

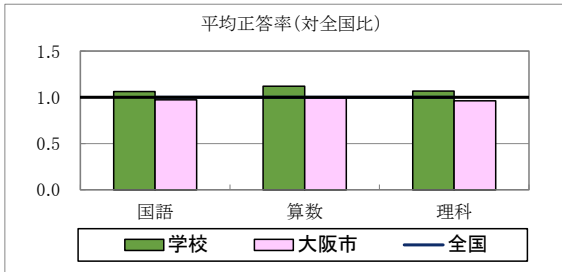
今後の取組(アクションプラン)

一人一台学習者用端末やデジタル教科書等のICT機器を活用して、児童にとって視覚的にわかりやすい授業を推進する。また、深い学びを実現するために、児童が主体となって課題を解決することができる「学び合い」を促進する。教員の資質向上を図るために、研修会を持ち、普段の授業において、子どもが主体的に学ぶ態度を養うとともに、「深い学び」につながる学習活動に取り組むようにする。今回の調査で課題となった国語科の登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉える学習や、算数科の図形領域に関する学習を重点的に補うような取り組みを計画・実践することで全体的な学力の底上げを図る。今後も「学び合い」を中心に協同的に学び、全員の学力向上を図るとともに、「わかる」「できる」「楽しい」があふれる喜びを感じられる授業を推進する。

【 全体の概要 】

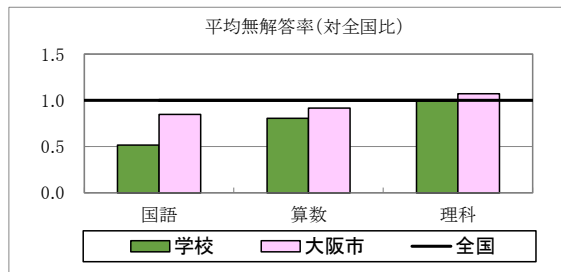
平均正答率（％）

| | 国語 | 算数 | 理科 |
|-----|------|------|------|
| 学校 | 71 | 65 | 61 |
| 大阪市 | 65 | 58 | 55 |
| 全国 | 66.8 | 58.0 | 57.1 |



平均無解答率（％）

| | 国語 | 算数 | 理科 |
|-----|-----|-----|-----|
| 学校 | 1.7 | 2.9 | 2.8 |
| 大阪市 | 2.8 | 3.3 | 3.0 |
| 全国 | 3.3 | 3.6 | 2.8 |



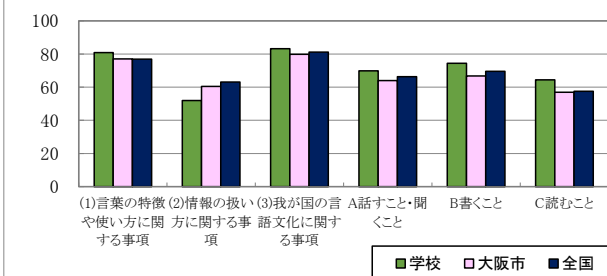
【 国 語 】

| 学習指導要領 の内容 | 対象 設問数 (問) | 平均正答率(%) | | |
|------------------------|------------------|----------|------|------|
| | | 学校 | 大阪市 | 全国 |
| (1)言葉の特徴や使い 方に関する事項 | 2 | 80.8 | 77.1 | 76.9 |
| (2)情報の扱い方に 関する事項 | 1 | 52.0 | 60.4 | 63.1 |
| (3)我が国の言語文 化に関する事項 | 1 | 83.2 | 79.9 | 81.2 |
| A 話すこと・聞くこと | 3 | 69.9 | 64.0 | 66.3 |
| B 書くこと | 3 | 74.4 | 66.7 | 69.5 |
| C 読むこと | 4 | 64.4 | 56.9 | 57.5 |

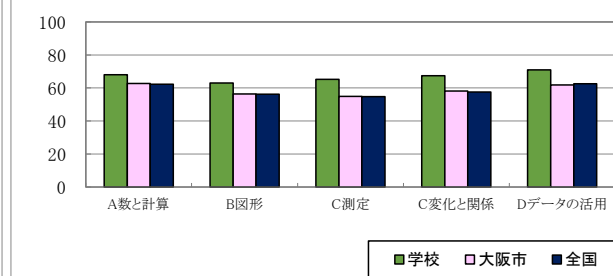
【 算 数 】

| 学習指導要領 の領域 | 対象 設問数 (問) | 平均正答率(%) | | |
|---------------|------------------|----------|------|------|
| | | 学校 | 大阪市 | 全国 |
| A 数と計算 | 8 | 68.0 | 62.7 | 62.3 |
| B 図形 | 4 | 63.0 | 56.4 | 56.2 |
| C 測定 | 2 | 65.2 | 54.9 | 54.8 |
| C 変化と関係 | 3 | 67.5 | 58.2 | 57.5 |
| D データの活用 | 5 | 71.0 | 61.9 | 62.6 |

国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)

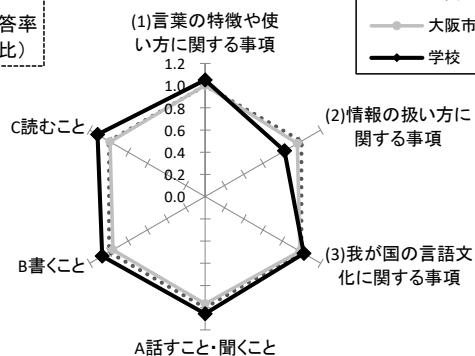


算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



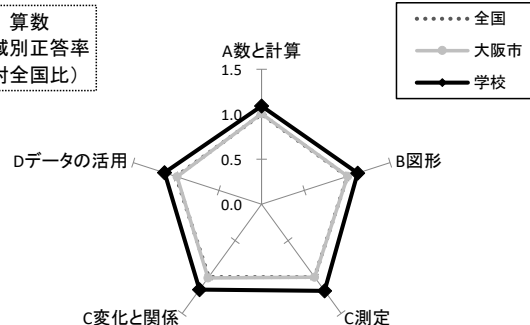
国語

内容別正答率
(対全国比)



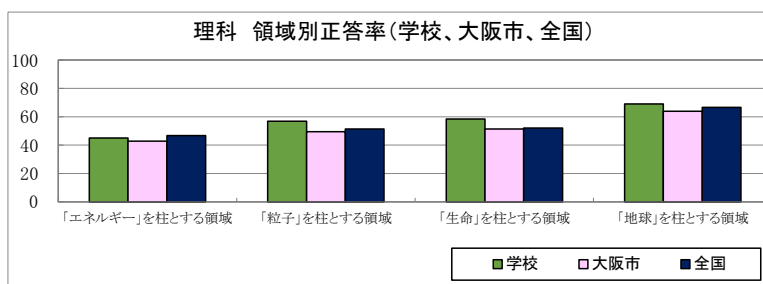
算数

領域別正答率
(対全国比)

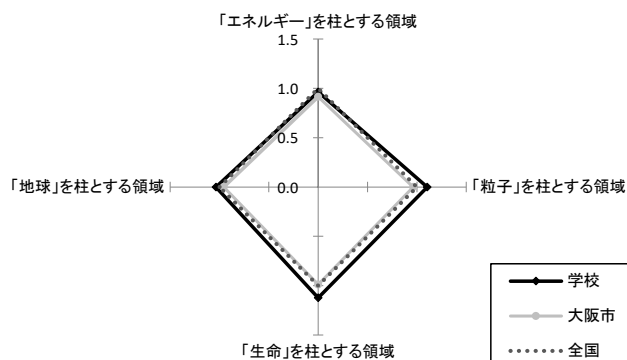


【 理科 】

| 学習指導要領 の区分・領域 | 対象 設問数 (問) | 平均正答率(%) | | |
|-------------------------------|------------------|----------|------|------|
| | | 学校 | 大阪市 | 全国 |
| A 区分 「エネルギー」を 柱とする領域 | 4 | 45.0 | 42.7 | 46.7 |
| | 6 | 56.8 | 49.5 | 51.4 |
| B 区分 「生命」を 柱とする領域 | 4 | 58.4 | 51.4 | 52.0 |
| | 6 | 69.1 | 63.8 | 66.7 |



理科 領域別正答率(対全国比)



児童質問より

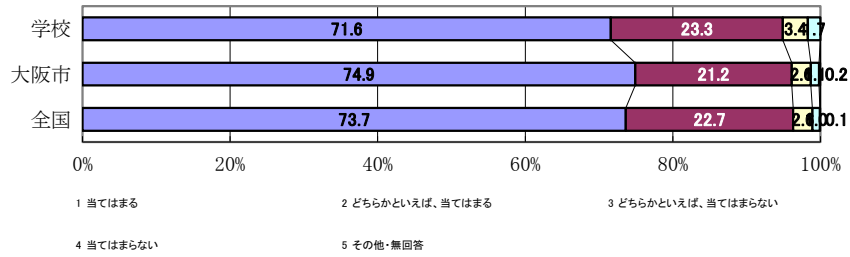
質問番号

質問事項

11

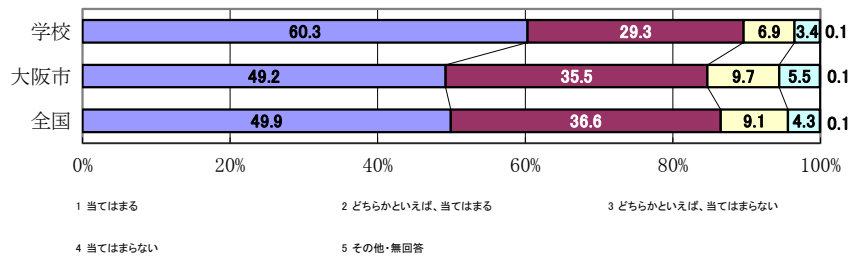
人の役に立つ人間になりたい
と思いますか

1 2 3 4 5 6 7 8



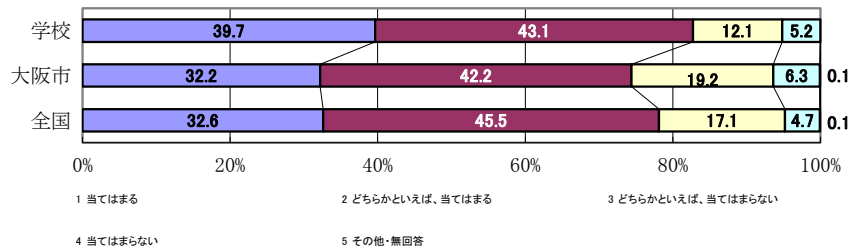
12

学校に行くのは楽しいと思っ
ますか



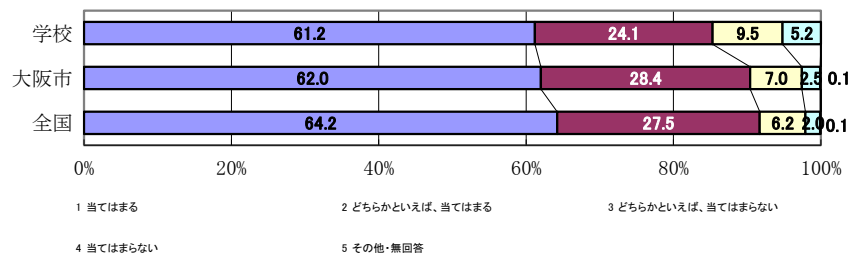
13

自分と違う意見について考え
るのは楽しいと思いませんか



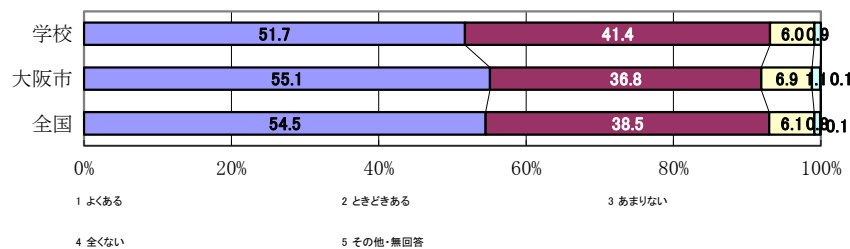
14

友達関係に満足していますか



15

普段の生活の中で、幸せな気
持ちになることはどれくらいあ
りますか



児童質問より

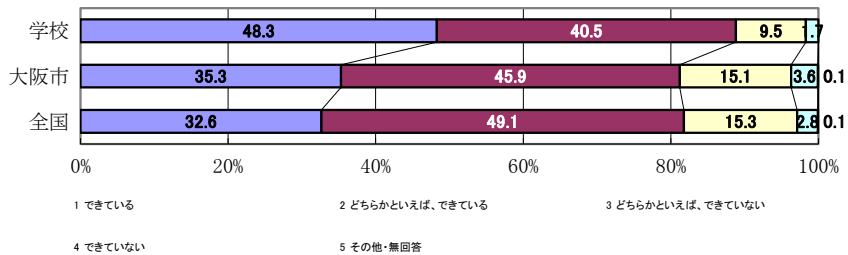
質問番号

質問事項

16

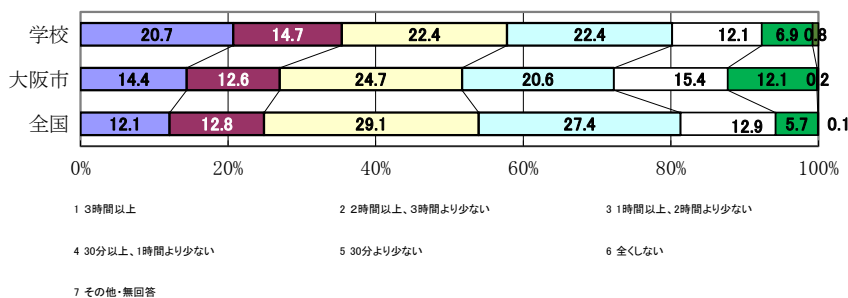
分からないことやよくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

1 2 3 4 5 6 7 8



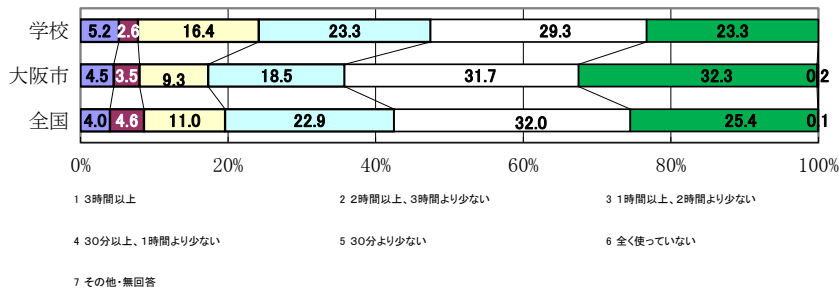
17

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間を含む)



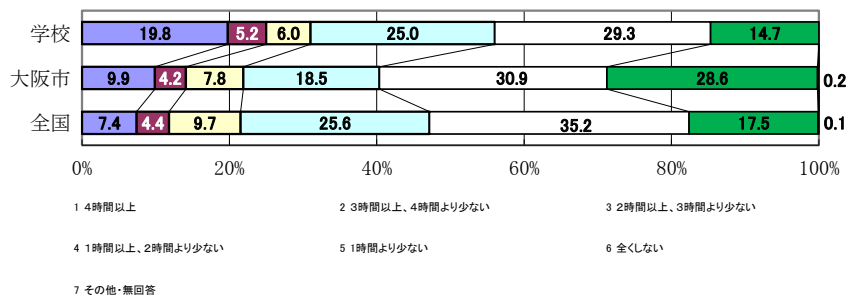
18

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除く)



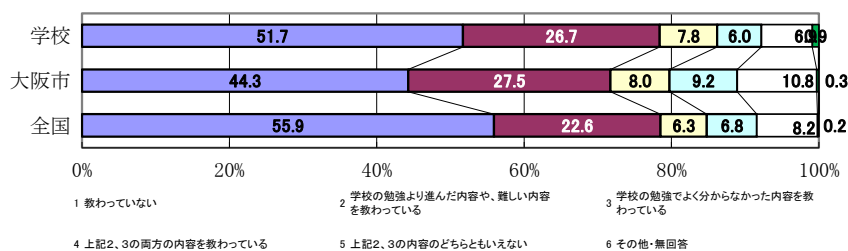
19

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間を含む)



20

学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか(オンライン授業の場合も含む)



学校質問より

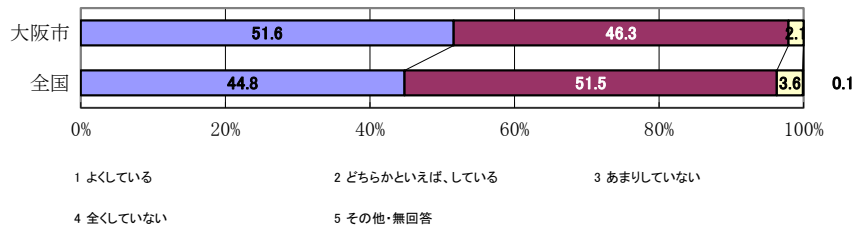
質問番号

質問事項

17

言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか

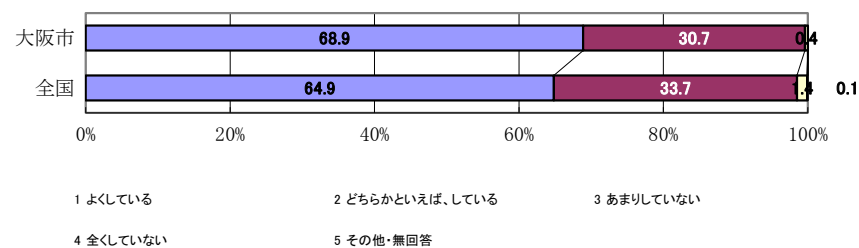
学校 「どちらかといえば、している」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

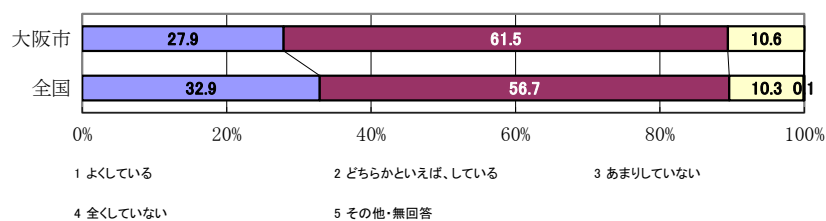
学校 「よくしている」を選択



19

個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか(オンラインでの参加を含む)

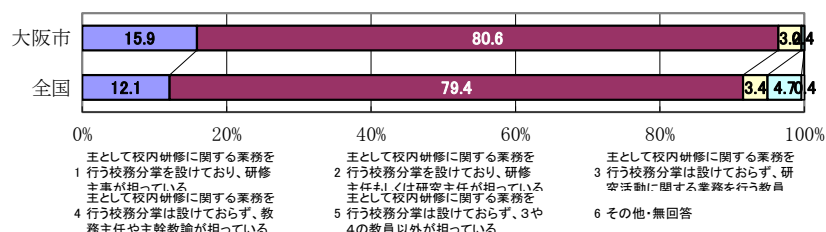
学校 「どちらかといえば、している」を選択



20

校内研修の計画立案、その他の研修に関する業務を行う校務分掌を、誰が担っていますか(管理職を除く)

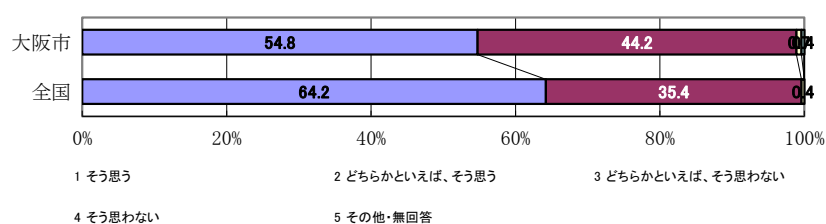
学校 「主として校内研修に関する業務を行う校務分掌を設けており、研修主任もしくは研究



21

学校運営上の課題への対応に当たっては、各教職員(支援スタッフを含む)の専門性を活かせるよう適切な役割分担や連携協働をしていますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



学校質問より

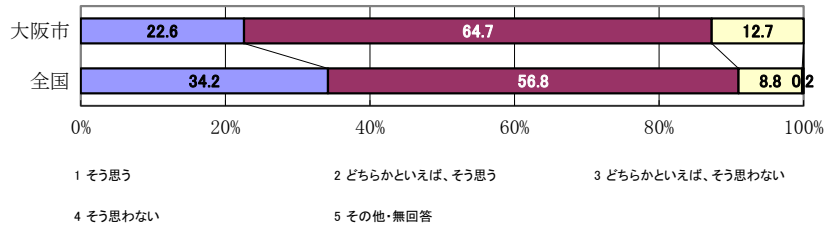
質問番号

質問事項

22

今までの取組をそのまま踏襲するのではなく、新しい取組を導入したり、提案をしたりしてくる教職員が多いと思いますか

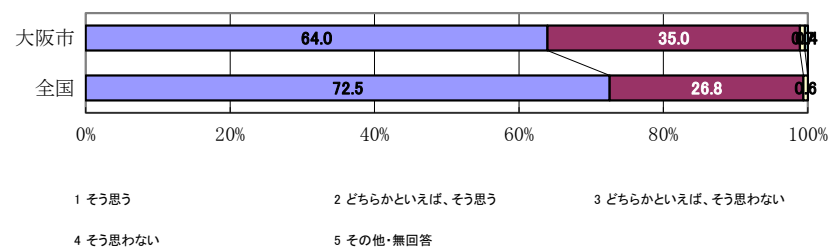
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



23

教職員が困っているとき、管理職と教職員との間で随時相談できるなど組織的に対応する体制を構築していると思いますか

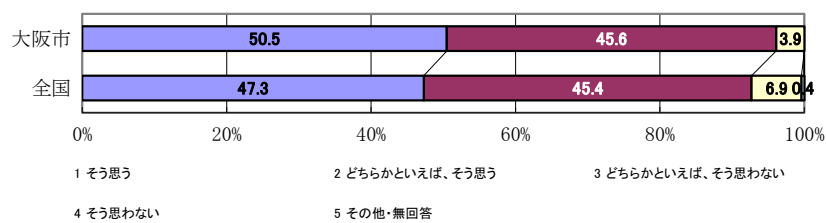
学校 「そう思う」を選択



24

ストレスチェックの結果の活用や研修など、教職員自身の心身の健康状態につき振り返り対処する機会が提供されていると思いますか

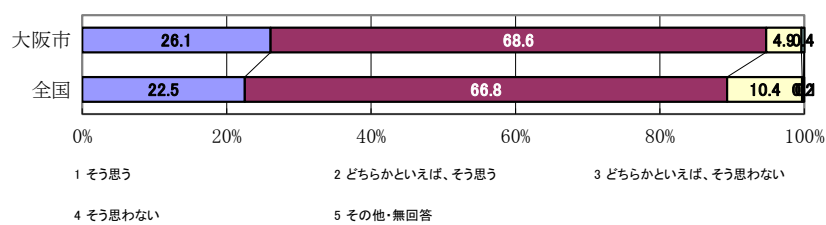
学校 「どちらかといえば、そう思わない」を選択



25

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



26

調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択

